図 書 館 だ よ り

２０２０年　（令和２年）
２月１４日　・　金曜日
第　３１　号
北海道旭川永嶺高等学校
図　書　局

４９２　臨床医学　診断・治療

看護の基本となるもの　再新装版

Ｖ・ヘンダーソン　日本看護協会出版会

看護の独自の機能と、看護がヘルスケアの中で果たすべき役割を記す。基本的看護を構成する諸活動を１４項目に分類し、人間の基本的欲求に影響を与える条件と関連づけて解説し、看護独自の機能を明確にする。

看護論　追記版新装版

Ｖ・ヘンダーソン　日本看護協会出版会

著者自ら本書を回顧録と呼ぶとおり、読者はここでヘンダーソン看護論の形成過程を体験することになろう。そして看護実践、研究、教育にその概念がどのように関連するのかを深く理解できよう。

４９３　内科学

ぼくらの中の発達障害　青木省三　筑摩書房

人とのやり取りが苦手だったり、こだわりが強かったり、発達障害とは病気なのだろうか？その原因や特徴、対処法などをよく知れば、誰のうちにもそれらがあることに気づくだろう。

第一学習社の小論文推薦図書。

呆けたカントに「理性」はあるか　大井玄　新潮社

「あなたは胃ろうを受けいれますか?」。そう問われた際、ボケて認知能力が低下した高齢者でも、健常者と同じく八割が「NO」と答える。いったい、なぜなのか―臨床観察と近代哲学の両面から、人間の判断の構造をひもとくうちに見えてくる、理性と情動の関係、意識と無意識の働き、三八億年の生命史をさかのぼる「好き・嫌い」の直感的意思表示の意味…。

学研の小論文推薦図書。

４９８　衛生学　公衆衛生　予防医学

保健師、このステキな仕事　村中峯子　社会保険研究所

保健師として働くことの意味や、「サイエンス＆アート」とも称される保健師業務の中身を、ベテラン保健師の事例に基づき理解できる。

無名の語り　宮本ふみ　医学書院

この本は、「保健師はどんな仕事をするのだろう。」と思っている人や、保健師になりたいと思っている人に是非読んでもらいたい、おすすめの１冊。

この本には、東京都の保健師であった著者、宮本ふみさんの体験をもとに書かれた１２編の家族の物語が綴られている。その物語のひとつひとつに、初期介入技法、必要な社会資源をまとめあげて総合的な支援を可能にするネットワーク構築の方法などが随所に盛り込まれ、読めば読むほど奥の深い保健師の世界が見えてくる。援助記録としても卓越している。

命の格差は止められるか　イチロー・カワチ　小学館

先進国の中で寿命が短いアメリカと、世界トップ級の日本。この違いは格差にあった。今、格差の広がりとともに日本の長寿は危機に瀕している。格差はストレスを生み、信頼や絆を損ね、寿命を縮める。人々の命を守るには、日本の長寿を支えてきた、格差が少ない結束の強い社会を守るべき――所得、教育、労働、人間関係…あらゆる側面から格差を分析、新たな長寿への可能性を探る。学研の小論文推薦図書。

石巻赤十字病院の１００日間

石巻赤十字病院　小学館

かつてない規模で行われた過酷なトリアージ、津波被害特有の“低体温症"患者への対応、避難所の劣悪な環境が引き起こした肺炎――石巻赤十字病院が体験した死闘の１００日間を追い、そこで生まれた様々な人間ドラマと交差させながら、今後の災害時救急医療の生きた教訓となるノンフィクション。学研の小論文推薦図書。

「国境なき医師団」を見に行く

いとうせいこう　講談社

作家・いとうせいこうが「国境なき医師団」の活動に同行し、世界のリアルな現場を訪ねて描いた傑作ルポルタージュ。日本の小説家がとらえた、「世界の今」と「人間の希望」とは？

持続可能な医療　広井良典　筑摩書房

高齢化の急速な進展の中で、日本の医療費はすでに年間四十数兆円を超え、さらに着実に増加している。一方、私たちは医療や社会保障に必要な負担を忌避し、一千兆円に及ぶ借金を将来世代にツケ回ししつつある―。医療のありようや社会の中での位置づけが、いまこそ公共的に問いなおされねばならない。持続可能な医療そして社会を構想するための思想と道筋を明快かつトータルに示す。学研の小論文推薦図書。

保健師ものがたり

大阪府保健所の保健師活動を語り継ぐ会
せせらぎ出版

大阪の元気な保健師さん・元保健師さん、16 名が書きました。たっぷりの事例をもとに、母性保護講師団活動、虐待問題、難病、高齢者医療など、地域保健に体当たりで取り組む保健師さんの奮戦ノート。

死を生きた人びと　小堀鷗一郎　みすず書房

現代日本では、患者の望む最期を実現することは非常に難しい。「死は敗北」とばかりにひたすら延命する医者。目前に迫る死期を認識しない親族や患者自身。病院以外での死を「例外」とみなす行政と社会。しかし著者の患者たちは、日々の往診の際に著者と語り合ううちに、それぞれの最期のあり方を見いだしていく。８割が病院で死亡する現代日本において、著者の患者は、その７割が自宅での死を選んでいる。 著者の祖父は森鷗外。

４９９　薬学

世界を救った日本の薬　塚崎朝子　講談社

がん治療に革命をもたらす「免疫チェックポイント阻害薬」、新型インフルエンザやエボラ出血熱に対抗できる抗ウイルス薬、がん治療の「魔法の弾丸」ともいえる分子標的治療薬など、日本人研究者が関与した「画期的新薬」が続々と誕生している。彼らはなぜ偉業を成すことができたのか。地を這うような苦闘の末に舞い降りた幸運の物語。